

# 知的障害特別支援学級に在籍する小学6年生の児童の交流及び共同学習における合理的配慮提供の取組

## 1. 事例の概要

A児は小学6年生で、知的障害特別支援学級に在籍している。A児は難病指定の症候群、股関節脱臼、斜視と診断されている。コミュニケーション面では、大人とはよい関係を築くことができるが、同学年の児童との間でうまくコミュニケーションをとることができず、集団の中で良好な関係を保つことが難しい場面がみられる。そこで、同学年の児童と交流及び共同学習を行っている。

本事例は、A児の交流及び共同学習における合理的配慮の提供の取組をまとめたものである。

交流及び共同学習を行うにあたっては、特別支援学級の担任、通常の学級の担任、特別支援教育支援員の間で、学期ごとに作成するA児の個別の指導計画を共有した。また、事前に交流を実施する通常の学級の担任から得た資料をもとに、A児に対して授業についての説明を行い、授業における課題への見通しをもたせたり、大まかな活動内容を理解させたりして、授業に参加させるようにした。その結果、A児は、「できた」と思えることを少しずつ積み重ねていき、自信や達成感を得ることができるようになった。

**キーワード** 交流及び共同学習、コミュニケーション、個別の指導計画

## 2. 幼児児童生徒の実態

A児は小学6年生で、B市立C小学校の知的障害特別支援学級に在籍している。A児は、難病指定の症候群、股関節脱臼、斜視と診断されている。

コミュニケーション面では、大人とはよい関係を築くことができるが、同学年の児童との間でうまくコミュニケーションを図ることが難しい。

## 3. 本事例に関する基礎的環境整備

- 学習指導体制として、特別支援学級の児童は、主として特別支援学級担任が指導に当たるが、交流及び共同学習の場面においては、通常の学級の担任が指導を行い、特別支援教育支援員が個別の支援に当たるという体制をとっている。【基礎1】
- 児童に関する情報交換や授業の打合わせを行いやすくするために、職員室では特別支援学級と通常の学級の担任同士を隣接した座席配置にしている。【基礎1】

## 4. 合意形成のプロセス

B市には、「交流及び共同学習ガイドライン」があり、C小学校でもこのガイドラインに基づいて交流及び共同学習を進めている。

A児についても、年度毎に交流及び共同学習の進め方について協議し、合意形成を図りながら進めている。

## 5. 合理的配慮の実際

- 交流及び共同学習を行うにあたって、特別支援学級の担任、通常の学級の担任、特別支援教育支援員間で、学期ごとに作成するA児の個別の指導計画を共有している。また、学期ごとの目標や手立てを共有することにより、班構成や座席の配置を工夫したり、板書やクラスメイトの発言をノートにとったりするなどして支援している。【合理①-1-1】
  
- 特別支援学級の担任と通常の学級の担任、教科専科の教員、特別支援教育支援員、介助員が日々連携し、日常的にA児が、交流学級の児童と円滑にコミュニケーションを図れるように、大人が前面に出すぎることのないよう留意しながら支援を行っている。しかし、A児がコミュニケーションにおいて困難を感じる場面では、特別支援学級の担任や講師、特別支援教育支援員が仲介役となり、課題解決に当たるようにしている。【合理①-2-1】
  
- 通常の学級の担任と特別支援学級の担任が、毎日、A児の学習や生活の状況及び交友関係等について情報を共有し、様々な場面でA児への適切な支援が行えるように配慮している。【合理②-2】

## 6. 本事例の成果と課題

特別支援学級の担任は、交流を行う通常の学級の担任から得た資料をもとに、A児に対して事前に説明を行い、授業の見通しをもたせ、大まかな活動内容を理解させた上で参加させるようにした。また、A児や支援に当たった特別支援教育支援員から参加の様子について聞き取りながら、必要に応じて特別支援学級で補充学習を行ったり、補助教材を用意したりして支援を行った。更に、通常の学級の担任と毎回の授業の様子について意見交換し、次回取組についての相談をしながら指導を進めた。その結果、A児は「できた」と思えることを少しずつ積み重ねていくことで、自信や達成感を得ることができるようになったと考えている。

A児は、見通しをもって臨んだ学習課題に対しては、非常に意欲的に取り組み、積極的に発言したり挙手したりすることができる。しかし、総合的な学習の時間のように、自ら課題を考え、それを追究する問題解決型の学習は、A児が最も苦手とする学習である。そこで、通常の学級の問題解決学習の流れに沿いながら、A児が問題解決の力を身に付けられるように、スモールステップによる支援の内容や方法を試行した。その結果、改善が図られた面もあるが、更に有効な内容や方法を探っていくことが課題である。